

池田 容子

(イケダ ヨウコ)

e-mail: yiked@rs.tusy.ac.jp



【研究内容】

イギリスの文学、特に Jane Austen (1775 – 1817) の作品を通して、「愛とは何か」、そして「愛はどのように芽生え、育まれ、存在し続けるのか」を探る。

目には見えないが、“愛”は確実に存在するものである。人間とともにずっと存在しているものではあるが、確固たる定義や説明は未だに存在していない。恐らく、今後もずっと解明しえないものであり続けるであろうと思えるが、少しでも真理に近付くことができればと考えている。

何気ない普段の生活の中であっても、恋愛は多くの人々の関心事項の上位を占めるのではないかと思う。実際に、昔から今に至るまで、本・映画・テレビ・会話などのあらゆる場面で、恋愛に関することが話題として取り上げられていると言える。因みに、1995年放送のBBC版 *Pride and Prejudice* (Jane Austen 原作) は、イギリスでの平均視聴率が40%を記録したとのことである。これは、主人公の愛の成就に、人々が大いに関心を寄せた結果であると言える。

興味の多少はそれぞれあるにせよ、多くの人々が気になって止まない、“愛”というものを探りたいと考える。

【研究目的】

パソコンやスマホ等の文明の利器のおかげで、コミュニケーションは気軽で手軽なものとなった。しかし、人と人とのより強いつながりを築く際、これらの機器はあくまでも補助的な役割しか果たしえないと私は考える。これらの機器によって、広く浅く他者と結びついている人は多いかもしれない。しかし、深く他者と関わろうとするのならば、これらの機器よりも重要な役割を果たす何かがあるはずだと私は考えている。

パソコンやスマホ等の便利な道具の無い時代の人々も、現代人同様、日常の会話・噂・手紙のやり取りを大いに楽しんだ。手に入れた情報の全てが全て、信頼できるものとは限らないわけであるが、これも現代の状況となんら異なることはない。情報をやり取りすること自体、或いはその行動を起こすこと自体が人々を結びつけるものとなっていると言えるだろう。人と人との間の強い絆を結ぶには何が必要かを検証したいと思う。

【今後の展開】

愛自体は目に見えるものではない。ましてや普遍的な数値に置き換えることができるものでもない。しかしながら、必ず誰もが持っていたり、感じたりし得るので、確実に存在していると言える。そして、我々にとっては必要不可欠なものであるとも言える。目には見えないが、愛は様々な形態をとり得、いかに時代が変わろうとも太古から途絶えることなく存在し続けている。つまり、人がそこに在る限り、存在し続けるものであると言えるだろう。

愛は、何も男女の間に限ったものではない。親子・兄弟・友・同胞の間等、至る所で存在している。しかも、生き物であるかのごとく、生まれ、育まれ、成長していく。また、時には廃れていってしまうという場合もある。

人を取り巻く内外の環境や状況—例えば、居住環境・経済状況・身分や社会的地位等—は、昔と現在では大きく異なっている。これらの環境が、愛に対してどのような影響を与えているのか探してみたいと考える。また、昔とは根本的に全く変わっていないもの—例えば、他者と関わりを持ちたいという気持ち等—が、愛を形作る上でどのように作用するかも、同時に見つめたい。

【主な研究テーマ／実績テーマと内容】

研究テーマは、「愛とは何かを探ること」を挙げたいと思う。また、英語教育を通じてコミュニケーションを楽しみ、喜びを分かち合うことも同時に行っていきたいと思う。

科学技術の発展とともに、効率的に物事を行うことが可能になった。我々の生活も科学技術の恩恵を大いに受けている。しかしながら、愛や喜びにとって、科学技術やそれによってもたらされる効率は、必ずしも必要不可欠な存在であるという訳ではないと私は考える。目に見える存在のみに留まらず、この別次元の存在をじっと見つめることにより、あらゆる面でより豊かな暮らしを実現できると考える。

【企業との共同研究の実績】

なし